http://commonf.net　E-Mail:jimukyoku@commonf.net

# 茅風

― Breeze from the field of thatch-grass ―

2018年9月25日
森林塾青水
事務局便り
茅風通信55号

タニウツギの咲き始めた上ノ原(5 月撮影)

■ 5 月後半～9月前半の活動報告（事務局）・・・・・・・1
■ 2018 定例活動②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
「ミズナラ林の若返り・搬出路（遊歩道)作設」
◆開催報告(草野洋)
◇参加者レポート(小谷野隆裕・中野陽子)
■ 2018 定例活動③・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
「土呂部草原」
◆開催報告(草野洋)
■ 2018 定例活動④・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
「防火帯刈り払い・上ノ原賑わい観察」
◆開催報告(草野洋)
■ 2018 定例活動⑤・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
「ミズナラ林の若返り伐採・遊歩道延伸と
藤原諏訪神社例大祭」
◆開催報告(草野洋)
◇参加者レポート(奥野正春)
■ 藤原現地報告(北山　郁人)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
■ 野守のつぶやき（清水　英毅）・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
編集後記　（敬称略）

【　5月】

●4 月末から 5 月にかけモニ 1000 の継続について自然保護協会（NACS-J）と協議開始。NACS-J が平成 30～32 年にかけ「利根川水源、みなかみユネスコエコパークにおける市民や学校と協働した里地の生物多様性把握とモニタリングシステムの構築」を実施するにあたり、協力していくこととする。

●12～14 日　全国草原シンポジウム開催。遠方（宮崎県串間市）につき、塾としては参加できず、笹岡顧問が個人として参加。

●国土審議会「人口減少下の持続可能な国土の利用・管理のために」の国土計画事例集の中で「都市住民と地域住民等が共同で茅場と森林を回復・維持・活用」として取り上げられることになる。（予定稿として H/P に公開された。）

●19 日　麗澤中学校（柏市）1 年生を対象に、樹木観察会のコーディネーター、インストラクター役を務める。

●26、27 日　定例プログラム「ミズナラ林の若返伐採と搬出路・遊歩道作設」実施、中心は、フットパス作り、会員 10 名、一般 4 名、合計 14 名(うち日帰り 1)参加。車座講座はクロモジ精油づくり。

【　6月　】

●9、10 日　定例プログラム「土呂部草原の生態系保全作業」実施。流域連携として会員 6 名が日光土呂部を訪問、日光茅ボッチの会と協働。

●17 日　イオン環境活動発表会（於高崎）にて青水の活動を発表。ユネスコエコパークフェアの一環として、イオン財団の昨年度の助成先 3 団体がその具体的な活動を紹介するもの。茅刈・茅出し、野焼、地域通貨に的を絞ってプレゼン、好評。

【7月】

●21、22 日　定例プログラム「防火帯刈払い・上ノ原賑わい観察」実施。参加 13 名(会員 12、会友 1)。記録的猛暑の中、慎重に進めたが予定完遂。

【8月】

●11、12 日　会員親睦プログラム「「山の日」玉原高原散策・トレッキング」を企画、7 名の参加を予定したが宿泊施設の急な都合により中止。

【9月】

●1、2 日　定例プログラム「ミズナラ林遊歩道整備と諏訪神社大祭」実施。会員 9 名、一般 3 名参加。諏訪神社例大祭に塾からも寄附。

（以上）

## ■2018定例活動②
## 「ミズナラ林の若返りと搬出路(遊歩道)作設
## —新緑の香りの中で—」　報告　草野　洋

野焼きから１ヵ月　ススキもワラビも順調に成長

野焼きから約一ヶ月、上ノ原は、大勢のワラビ狩りで賑わっていた。5 月 26，27 日、参加者 14 名による今年度 2 回目の活動は、ミズナラ林の伐採のための搬出路（歩道）の作設である。

この時期の上ノ原のミズナラ林は、見た目には生き生きしているようだが、それは落葉した冬枯れの状態に比較するからで、実は芽吹きと開花の疲れでエネルギーを使い切って疲労困憊の「青息吐息」状態である。むしろ秋や冬の樹木の方がエネルギーが充満している。これから夏の太陽を浴びて光合成を活発に行う。新葉を害虫などから守るためフィトンチッドを揮発する「桃色吐息」の時季はこれから。それでも森に入るとすがすがしさを感じるのは成長を控えた木々の生気に抱かれるからだろう。だから、この時季は伐採の適期ではない、特に「ぼう芽更新」には不適である。そのこともあって今回は伐採を最小限にすべく北山塾頭と相談して搬出や散策のための歩道作設を主体とした。

朝日岳とタニウツギ

１日目は、十郎太沢の「柞（ははそ）の泉」から木馬道へ抜ける時に直登していた箇所の歩行の邪魔になる木を伐採し、階段や迂回路作って歩きやすくする。途中でみなかみ町からの初参加のＫさんと家族ともども藤原に移住した米国人のＦさんが合流。Ｋさんは自伐林業をやりたいとのこと。Ｆさんは自然と人との共生を研究していて藤原で「森のようちえん」を開園することになっている。下手な英語より日本語が通じる amazing な米国人である。

さわやかな森の香りの中で

ここの歩道の補修作業は木馬道に到達し 15 時ごろに終了、木馬道は 2 年間かけて作った道であり木馬が滑走した時の「50 年前の初恋が成就したような」感動が蘇ってきた。それにしても道が荒れている、雪の影響もあるが人が作ったものは使ってメンテナンスしないとすぐにだめになる。世の中には作るだけ作って使われず手入れもしないものが多すぎないか､反省‼　上ノ原を眺めてここはそうさせないと心に誓う。

上ノ原を守る‼

そのあと、北山さんが自伐林業の木材搬出のために作設した作業路兼遊歩道を散策する。幅３ｍぐらいで勾配もゆるく壊れにくい立派な作業道が循環道になっていた。短い期間でここまできちんと作った彼の奮闘に頭が下がる。この道も有効に使わなければならない。この作業道のある森林は比較的大きな木でブナ、トチノキ、ホウノキ、オオヤマザクラ、キハダ、ミズナラなど種類も多い、散策にはうってつけである。上ノ原にもう一つのタカラができた。帰り道、この付近に多いオオバクロモジの葉を採取して宿に帰る。

### 車座講座「クロモジ精油の作り方」　講師　北山郁人

この日の宿は奈倉、夕食が済んで一杯やっていると北山さんが蒸留器を持参してやってきた。車座実践講座「クロモジ精油の作り方」を始める。蒸留器にクロモジの葉を入れ蒸し、その蒸気を冷やして精油を抽出したのがアロマウオータである。その間にクロモジの葉を煎じてクロモジ茶を作る、アロマティである。蒸留器からうっとりするような香りが漂う。お茶も味も香りも excellent！作り方も意外と簡単､これなら商品化も可能ではないだろうか。

蒸留器にクロモジの葉を入れ蒸す

２ 日目は、十郎太沢から北側への歩道の修理を行い約半分が完成し歩きやすい道となった。続きは 9 月になる。10 月の麗澤中の FW に間に合うだろう。

清々しい森の中

昼の森の薫り、夜の香り、で癒された心地よい２日間だった。

## 参加者レポート

**小谷野隆裕（株式会社キャニオンズ）**

今回、森林塾青水の活動へ初参加させていただき、多くの気づきを得られましたが、そのなかでも特に感動したことが3つあります。

1つめは、ウルシについてです。「これはウルシだよ」と教えてもらい、”実際に見て判別”することができました。情報を与えてもらい、実際に生えている状態で、他の植物と比較できて、ウルシに気づくスキルがアップしました。（※次は樹皮だけを見ても気をつけられるようになりたい）

2つめは、山菜です。実際に生えている山菜を見て触れて、なおかつ色々な山菜の料理を食べられたことにとても感動しました！いつか地元の山菜エキスパートたちを先導に「山菜を探して採って調理して食べる会」をやりたいなと思います。

3つめは、上記のような実際に自然の中で活動することの効能そのものです。本や Web から、ある程度の知識情報だけは得られますが、実際に行動して目と耳と鼻と手足や食感や味覚で刺激されることで、より立体的で有用な情報として記憶されるということが体感できたように思います。

知識を得たあとで実際に行動して体感することではじめて「わかった」と納得できると思います。そこで事前情報として、ホームページの「フィールドの生き物」コーナーに「気をつけたい野草」「山菜」で分けられた情報もあるとありがたいなと思いました。

また自然の別の側面として、キャニオニングなどの遊びもセットで体験してもらうのも、より自然への魅力が深まると感じます。澄んだ清流の天然滑り台の快感は極上です。キャニオニングについては canyons.jp で動画などを見られます。ご参考までにご利用ください。

今回の活動を通して、自然の中で行動して学ぶことの大切さを改めて強く感じました。学びだけでなく、森の成分による癒しで自律神経系も活性化し、脳細胞が進化したような感じがします。今後も更なる進化を求めて参加させていただきたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

## 参加者レポート

**中野　陽子**

今回、クロモジでハーブウォーターを作るという話を伺い、クロモジのアロマオイルの値段がとても高いことからのお得感と、山の中によく生えている木が、活用されることに興味をもち、参加させていただきました。

当日 10:20 上毛高原駅着、駅で他の方と合流することができず、そのまま現地へ向かう。

アカシアの花を見ながら藤原湖を渡り、対岸の分岐以降は、殆ど対向車もなし。本当にこの道で良いのかと不安になりながら、上毛高原駅から向かうこと約１時間、現地に到着する。

到着した場所には、ススキの原っぱが広がり、クロモジは見当たらない・・・・・、ここがクロモジを採取する山なのだろうかと不安になる。周辺には、止まっている数台の車、ススキ原の中には、多数の人。遅刻だろうか？などと思っていると、いらっしゃった方は、山菜取りに来ていた方々だった。栃木からも来られているとか。

しばらくたつと、森林塾青水の皆様がいらっしゃって一安心しました。

皆様と合流して、昼食。蛙？と悩んでいた虫の音が、エゾハルゼミと伺い、春に鳴く蝉がいるとはと驚く。初夏にもかかわらず、何か、盛夏に避暑にきているような気分になりながら、昼食を食べ終えた。

今日の作業の講習を受け、作業場所へ。作業場所は、ススキ原の先の森で、作業場所の始点には、小さな沈砂池があり、飲めると伺って飲んだ水は、冷たくて甘い美味しい水だった。

当日の作業である遊歩道の整備が始まったが、作業開始当初は、何をしていいのかわからず戸惑った。しかし、皆様の作業を見つつ、歩きやすい道にするために、鍬で山を削って道幅を確保し、山を削るととび出してくる木の根を切り、均して道の勾配を緩くし、緩くできないところには階段を設けるという作業に、少しずつ携らせて頂いた。また、階段の一部はカズさん（藤岡夫妻の奥様）に、横木から杭の作り方、打ち方まで教えていただきながら作業し、達成感を味わうこともできた。

作業場所は、とても綺麗な広葉樹林で、お目当てだったクロモジも多く、ハーブウォーター作りのために採取するクロモジの葉っぱに事欠くことはなかった。森の緑の中で黒く浮き上がる樹皮とたおやかなクロモジの樹形は、とても綺麗でした。

「上ノ原入会の森」は、里山という言葉を体現しているような本当に素敵な山でした。ミズナラを主とした広葉樹の森、そこから流れ出る森の水、それを守る人たち。夜の部でうかがいましたが、利根川の下流の住民が利根川の水源を守るという考えで始まったとのこと、その一端に触れさせて頂き、とて

もいい経験をさせていただきました。
　夜の部でのクロモジ茶とクロモジのハーブウォーターも、手間のかからない方法でクロモジの良い香りを味わえました。宿泊した宿のご飯も美味しくとてもよかったです。
　若いという扱いを頂いたにもかかわらず、作業において戦力となれず、申し訳なく思っております。二日目は、体力との兼ね合いで失礼致しました。温かく初心者を参加させてくださった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

## ■2018定例活動③
## 「日光土呂部　草地の保全活動―ワラビもこんなに増えれば憎いやつ―」報告　草野　洋

　今年も、青水メンバーが日光土呂部の草地に出没、今回は少人数の７人、多数を占めた女性陣ペースの武者修行となった。

圧巻のワラビの群生

　６日に梅雨入りした関東地方にもかかわらず、９日は早くも梅雨の晴れ間の日光入りとなった。日光茅ボッチの会代表の飯村さんに案内されて土呂部草地に入ると、腰高ぐらいの黄緑色のワラビの葉がまるで傘を干したように草地を覆っていてほかの植物が見えないくらい。森林で言えば複層林の上層木がワラビである。
　そして食べ頃の新芽があちこちに伸びている。増えすぎて困っていると聞いてその駆除のお手伝いに参じたのであるがこれだけ増えるとやはり、他の貴重な植物の生育を阻害することになる。
　エゾハルゼミの大合唱のなか、早速、大人ワラビを踏み分けながら子供ワラビを採取する。ワラビは採っても採っても次々に新芽を出してくる植物で９月頃でも新芽が採れる。細くても強い茎で２回羽状複葉の葉を支え、光合成を旺盛に行い地下茎に栄養分を蓄積するので繁殖力は旺盛である。酸性土壌で日当たりを好むので草原など開けたところに出現する。ここはよっぽど住み心地が良いらしい。草原状態を維持しようとする草刈りなどの作業もワラビの繁殖を助けているのかもしれない。ワラビに罪はないが他の植物と共存するためには人間の手で駆除もやむを得ない。そして採ったものは無駄にせず食糧にする。昔から里山ではワラビを採取して食料としてきた。わらび餅のでんぷん、山菜、牛馬の餌、緑肥などがそれである。この中でもわらび餅のでんぷんは地下茎を掘り起こすのでワラビにダメージが大きいと思われる。かつて上ノ原はワラビ粉を採取して現金収入にしていたという、それと野焼を行っていることが比較的ワラビの少ない植生になったのだろう。では、土呂部でもワラビ粉を採集してわらび餅を作ったらと単純に考えるが、これがこの後の作業で容易ではないことがわかる。

　平坦なところから尾根沿いに移動してその一帯の雑木の切除のあと、ワラビ抜きをしてみると、でんぷんのありそうなところはごく少ない(**写真上**)。これでわらび餅を作るのは相当の量がいる。シャベルかクワで掘って、粉砕して、漉して、干してという工程も多そうだ。でも高級和菓子の手作りに挑戦してみたい気もする。
　この日は、このあとヘラバヒメジオンやメマツヨイグサなどの外来侵入植物を駆除する作業を行い終了。カッパの泉で冷えたビールでのどを潤し、民宿水芭蕉苑へ。元気いっぱいで明るい女主人の温かいおもてなしがうれしい、雰囲気にのまれ遅くまで盛り上がった。

カッパの泉で休息

　２日目は、やはり梅雨、朝から雨模様だったが奥の草地に出発する頃には、小ぬか雨となった。途中、クロビイタヤの大木を見て、太平洋側タイプの樹種などを見ながら40分ぐらいかけて目的地の草地に到達、ここもワラビが大繁茂しているが貴重な植物の生育が保たれている、日光茅ボッチの会がいつ草刈りすると花が咲きやすいか、ワラビを全部抜いたらどうなるかなど

奥にある草地まで歩いて移動

踏まないように、そーっと

の科学的に試行錯誤を行っていて、継続のチカラがタカラを守っている場所である。ここでも、一画のワラビを抜く作業を行った。
　今年も貴重な草花にまた会うことができて幸せな気分になる。
　土呂部の草地を守る茅ボッチの会の皆さんのご苦労に頭が下がる。

## ■2018定例活動④
## 「防火帯刈り払いと上ノ原の賑わい観察 ―安全な野焼きのために―」 報告　草野　洋

　今年の夏はとにかく暑い、体温を超えるのが当たり前になっている。
　人間は、家、オフイス、車、電車と冷房の効いたカプセル状の空間から空間に移動して過ごしている。冷房の効いた空間はまるでシェルターになってしまった。
　標高 1050mの上ノ原は過ごしやすいかと思ったら３４度。風もない。灼熱の草原となっていた。ススキも葉を丸めて日焼けを避けているようだ。今年の茅の出来具合が心配だ。

温度計は
34 度

　7 月 21 日、22 日、真夏の茅場の維持作業、重労働の「防火帯刈払い」を行った。
　参加者は刈払機の取り扱いがベテランの域に達した８名とこの時季の草原風景が大好きな５名。刈払機組は、例年のように常設防火帯の刈り払い。来年の野焼きはＣブロック（町道と林道、十郎太沢とカラマツ共有林に囲まれた区域）。茅場は４本の防火帯と道路で囲まれている、この防火帯が雪のないときの野焼の安全を守ってくれる。刈り払は重労働だが大事な作業である。

　作業前の注意事項や替え刃をして早速作業に取り掛かる。もう５年以上刈り払いしているので植生が変わり、草丈も比較的低く、灌木もないので刈りやすいがそれでも高い気温とエンジンの熱で 10 分も続けると汗だく、熱中症予防のための水分補給と 30 分ごとの休憩を指示したが、刈りだすと夢中になる人ばかり、心配しながら作業の様子を見回りして声をかける。

刈り払いは達成感が満点！

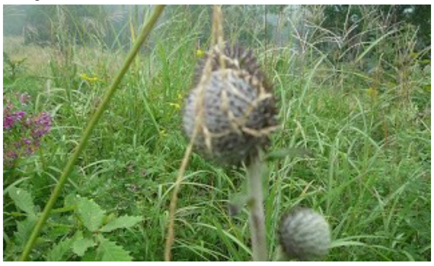
　刈り払いは能率が上がり､1 日目に約 80%を終了、二日目に 1 時間ほど作業をして完遂。お疲れ様でした。
　もう一組は、茅刈の際に作業がし易いように、今の時期にヨモギ、ハギなどの邪魔になる雑草（ゴミ）を取り除いておく「雑草木除去」の作業である。これも炎天下、頭に直射光を受けながらかがみこんでやる過酷で地味な作業である。でも、これをやったところとそうでないところの茅刈作業の違いは明らかである。楽しみはススキの中に夏の草花や赤とんぼ、ヒメシジミチョウなどの上ノ原の賑わいを観察できることである。黙々と作業をする皆さんに感謝。途中、今夜のクロモジハ―ブウオ―タ―用のクロモジを女性３人に採取してもらった。
　　午後３時半、暑さを考えて、作業を早めに切り上げ、ミズナラ林内の新しい作業道を散策することにした。林の中は、陽を遮る樹木があり蒸散作用で草原とはかなりの温度差、フィトンチッドの作用もあって生気を取り戻す。これが森林セラピー。来年は作業も取り入れた森林セラピーを本格的にやってみたい。
　今回は、スイカ、トマト、キュウリ、ビールを十郎太沢に冷やしておいた、これが皆さんに大好評。
　疲れた身体を、「たかね」の温泉と、クロモジハ―ブウオ―タ―で癒して、ホタル探し（一匹確認）と最後まで涼しさを求めた活動でした。
　最後に上ノ原の草花の写真を紹介します。

上　サラシナショウマ
右上　カセンソウ
右下　オカトラノオウ

左上　シシウド　　　　右上　ウバユリ
左下　ウツボグサ　　　右下　ガクアジサイ

## ■2018定例活動⑤
## 「ミズナラ林の遊歩道整備と諏訪神社例大祭 ―森林セラピーも視野に―」 報告　草野　洋

炎暑の夏に、豪雨、台風、地震と心身ともに休まる暇のない今年の夏、都会のストレスを目一杯貯めて上ノ原入り。気温はあの殺人的な暑さ 34 度に比べると嘘のような 23 度、さわやかな風が吹きススキの穂はまだ赤くツンと立っている(写真・上)。今年のススキは例年に比べて細いようだが順調に生育している。オミナエシ、アキノキリンソウ、ツリガネニンジン、ノアザミ、オオヤマホクチ、シシウドなどの秋の草花の黄色，赤、白で賑やか、カンタンの鳴き声も聞こえる。いっぺんにストレス発散である。



左：オオヤマホクチ
左下：ツリガネニンジン
下：タマゴタケ

今回は、茅場の背後にあるミズナラ林内に遊歩道を作る作業が主である。同時に歩道沿いの樹木の樹名板の取り替え（新規取付け）作業も行う。そして、二日目は、恒例の諏訪神社のお祭りを楽しむプログラムである。９月１日、２日の活動に参加したのは１２名、草原のさわやかさに自然と笑顔がこぼれる。

ミーティングで，樹名板取り付けは、２回目の参加で森林インストラクターの資格をお持ちの奥野さんをリーダーにお願いして、他の３人と一緒にやってもらうことに（詳細は次頁の報告を参照）。

遊歩道づくりは、５月の続きを今回で完成させる予定である。この遊歩道は、主に森林散策に使うが、森林セラピーとして活用し、みなかみ町のユネスコエコパーク施策に貢献することも視野に入れている。

森林は、人を癒やし、健康に導くチカラがある事が科学的に実証されており、森林セラピーは森林を楽しみながら身体と心の健康維持・増進、病気の予防に役立たせようというもので一般に「森林浴」と言われている。

ハイキングや登山でもなく健康のために森に入り楽しむもので、呼吸法やアロマテラピー、リラクゼーションなどのプログラムがある。森の中で五感を働かせて森のチカラを享受する。中には医師と連携して前後に血圧やストレスホルモンを測定するプログラムもある。セラピー基地は全国に６３箇所認定されて、群馬県では、赤城自然園（渋川市）のほか上野村、草津町にあるが、認定のハードルはかなり高いので、現在の上ノ原でそこまでいくのは難しい。ただ、上ノ原の利点は、広々とした草原が直ぐそばにあり一体的に利用できること、草原の維持作業や森林作業と組み合わせた森林セラピーにすることも可能であり、藤原の風景や宿泊施設と合わせて活用できる。

朝靄の上ノ原にも癒し効果が

そのためには, 魅力ある森林と歩きやすい遊歩道、休息の場所が必要である。特に休息場所の「座観」は「心を落ち着け景色や心の中を観る」ためのリラックスする場所で、カウンセリングする場所としても使うなど森林セラピーにおいて大切な場所である。この座観場所は丸太を並べて作る予定である（次頁にイメージ図）。

座観場所のイメージ

歩道づくりは、傾斜がきついところには横木を並べ階段状にして杭で止める(写真・下)。谷側に丸太で片桟橋を架ける場所もある。横木の材料は,周囲の細い木をチェンソーで伐採して利用する。この作業に結構時間が掛かり、座観場所づくりまでは至らなかった。

共同作業の心地よい汗と、心の癒しのあとで

宿泊場所は、民宿「関ヶ原」、新たな洋風メニューが加わっていて美味しい夕食となった。

２日目は、諏訪神社例大祭に地元の人々共に参加。獅子舞や地元の片の芸能、幼児たちのほほえましい音楽会で楽しいひとときを持った。

今年も続いた伝統の祭り獅子舞の舞手には若き後継者も

## for rest(休息のために)<br>= forest（森）を感じて

奥野　正春

『ミズナラ林遊歩道整備と諏訪神社大祭』、この事業計画発表の時から参加を決めていました。酷暑の夏が過ぎ、高原の風はやはり涼しく心地良いものでした。

１日目は、ミズナラ林の遊歩道作りと樹木への名札付けでした。名札班の私は3名の方と共に林に入りました。林を一見して、種数の多い林という第一印象でした。

高木は、ミズナラ、アカイタヤ、トチノキ、ホオノキ、ハリギリなどが占め、亜高木と呼べる階層には、高木層にある樹種に加えてミズキ、タムシバ等が、低木にはさらにマユミ、コマユミ、オオカメノキ、オオバクロモジ、ヤマウルシ、つる性のツタウルシ、ヤマブドウなど、林床には、ササ類や低木層の幼樹がよく繁茂する広葉落葉樹林です。

私がよく入る日本海側雪国の森と頭の中で比べていました。しかし、この標高で当然あると思っていたブナやその下部のユキツバキが全くありません。また、常緑性の地這性低木であるエゾユズリハやヒメモチ、ツルシキミなども見えません。かなりの積雪があるのに、近くの国境を越えるとこうも違うのに驚きです。

名札付けは楽しい作業でした。ご一緒の方々と「この木の名は○○だ、いや△△だ」などと言いながら、写真を撮ったり、木登りしたりして名札を結びました。時には木から落ちることもあり、少々傷だらけの身体となりましたが、樹木名を思い出したり、教えてもらい勉強になりました。

他の8名の皆さんは、遊歩道（木馬道）作りと座観の場作りでした。“座観”について、はじめに塾長から説明がありました。「林は、歩くことと共に、時には座して休みながら景色を眺め、それぞれが異なる独自の構図を頭の中に描く、そのための大切な場所でなんだ」と。伐採した丸太を数本広場に横たえ座る場とするものでした。

座観式庭園というものがあるそうです。室町時代頃に興った、書院や座敷から座観鑑賞するための比較的狭い庭園だそうです。森や林は何のための場所か？“休むための＝for rest” つまり”forest＝森“です。森に座して景色を眺める者に潤いや安らぎ、休息を与える空間として座観場所は大切なものなんですね。

２日目は、朝、ススキ草原を散策しました。清水さんから「草木塔」を案内していただきました。その謂れを説明していただき、大いに感動しました。私のよく行く山中では馬頭観世音などにはよく出会いますが、草木塔は知りませんでした。

それは、草木に

感謝し、その成長を願って建立されたと伝えられる石碑のことだそうです。その昔、米沢藩の江戸屋敷が焼失し、その再建のために米沢の山林が伐採され、また、現在の米沢市で大火があり、その復興のために米沢の山林が伐採されたことに対する感謝の念がきっかけとなったとされているようです。国内で 160 基以上確認されており、その9割が山形県内置賜地方にあるとのことです。“自然と人間との共生”忘れがちな精神です。

10 時頃より諏訪神社例大祭を見学(参加)しました。神事後に藤原地区総出で神社境内に集まり、獅子舞や演芸を楽しんでいます。担当地区の役員から御神酒、ビールやおでんが振舞われ、秋の収穫を待つ一時の休暇なのだろうか、見学する集落の人達の楽しそうな顔が印象的でした。

この大祭は、祭り担当の方から聞いた話ですが、通常は毎年8月 17 日に行われるらしいです。上区、中区、下区が3年に一度の当番で、3年もすると獅子舞を忘れてしまうので、3週間前から夜に練習してきたとのことです。祭りは建久2年6月から続くものだそうで、建久3年には源頼朝が鎌倉幕府を開いているので、鎌倉時代初期から 818 年も受け継がれてきたものです。国久保、日本懸り、耶魔懸り、吉利と4つの獅子舞があり、だんだん踊る時間が長くなり、最後の吉利は2時間位も踊り続けるとのことです。しかし、後継者不足で来年からの実施が危ぶまれているとの話でした。

昼過ぎ、遠くに祭りの囃子を聞きながら藤原地区を後にしました。2日間、とても楽しい体験でした。いろいろ教えていただいた青水塾の皆様に感謝申し上げ、また訪れることを誓いました。

## 藤原現地事務所報告
## 大学生の体験活動プログラム　北山　郁人

8月 16 日から 26 日まで東京大学の男子学生4名が、大学主催による体験活動プログラムで、民泊しながらみなかみ町の様々な取り組みや活動を体験していただきました。この取り組みは、今年で 3 年目となり徐々に地域にも定着してきました。以下、学生の感想です。

### ☆プログラム参加者の感想☆

みなさん初めまして。8 月の中頃から下旬にかけて、東京大学の4名の学生がみなかみ町にて体験活動をさせていただき、前半は藤原地区でお世話になりました。今回は学生4名を代表して、東京大学農学部3年の茂木が藤原地区での活動についてお伝えいたします。

まず藤原地区での一日目は地区のお祭りのお手伝いを行いました。提灯や櫓、出店を準備したのち地域の皆さんと共に祭りを楽しみました。二日目はホテルサンバードにて、社長の松本様と地域の観光業についてお話した後、みなかみ体験旅行の北山さんと共に上の原へ行き、茅場や里山を見学したほか、伐採の体験もさせていただきました。夕方からは藤原湖マラソンの前夜祭のお手伝いをし、大迫力の花火を間近で見ることができました。三日目は藤原湖マラソンの給水所のお手伝いをし、午後は二手に分かれ、祭りの片づけと、体験旅行で訪れたスポーツクラブの子どもたちのどろんこ体験のお手伝いをしました。また夜には地区の皆さんが獅子舞を練習している様子も見せていただきました。五日目は祭りに向けて諏訪神社にて境内の草刈りをした後、再び上の原へ行き林道づくりの下準備をしたほか、奈良俣ダムや湯の小屋温泉、水源の森を見学し、翌 21 日に藤原地区をあとにしました。

自然の豊かさや景色の素晴らしさはもちろんのこと、地域の皆さんの元気さや伝統を守る真摯な姿勢がとても印象的でした。気候の厳しさや地理的なハンデに負けない生活の知恵・伝統の暮らしも魅力的でした。また、僕たちを温かく迎え入れていただき大変うれしかったです。藤原地区のみなさん、どうもありがとうございました。

## ■野守のつぶき（14）
## ～　恩顧の方々を訪ねる巡礼の旅　～

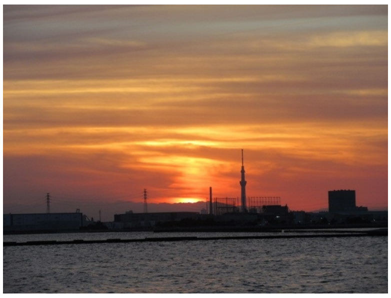
**●草木供養塔に額突きて・・・**　　５月 26 日～27 日

４ 月末の山の口開け、十二神様に参加者全員で一年の無事安全を祈った。
十二神様の代表格は大山祇神、名を連ねたる加屋野姫神、葉山住神、原山祇神。お名前からして上ノ原専任らしい。写真右下の草木供養塔がそのお休み処。野焼無事終了の報告・お礼方々、向後一年の恵み多きをお祈り申上げた次第。

**●「虹別コロカムイの会」25 周年**　６ 月 26 日～27 日

摩周湖に水源を発する西別川はオホーツク海に至る。その流域で、シマフクロウの森を 100 年かけて作ろうという活動が 25 周年を迎えた。この間、ミズナラなど 8 万本の苗木を植樹、36羽の巣立ちを見た。館 定宣代表曰く「あと、75年頑張ります」と。その意気や軒昂。
久方ぶりに館さんと再会、川端先輩共々旧交を温めた翌朝。気が付けば、温泉宿のタオルに25年前には無かったシマフクロウのマークが！（写真上のまん中）

**●ＢＰＡ主催サンセットクルージング**　8月 18 日



徳川代々のお菜場だった船橋港に僅かに残る浅瀬・三番瀬。その保全をはかる NPO 法人BPAの代表・大野一敏さん。海岸の緑化をお手伝いをして以来、かれこれ 20 年余のお付き合い。今年も見事に、スカイツリーの彼方に沈む夕陽を見せてくれた。2 年先輩で、元気な後期高齢者の鑑。こちらも今秋には、設立 25 周年を迎えて張り切っておられる。負けてはいられない・・・。

**●宿毛の地に石原くんを訪ねる**　　8月27日～29日

かつての当塾・学生部代表。そして、小貝川の野焼きに誘い西廣先生とのご縁を取り持ってくれた石原光訓くん。T 大院卒後、東京のベンチャービジネスに就職。公言通り2年でスピンオフ、現在は高知県の最西端・宿毛市の観光協会専務理事として大活躍中。
左下は、彼氏が公務のかたわら手掛ける田んぼの光景。草刈りのお手伝いをしてきた証拠写真（^-^）

右は彼が企画・育成した 20 人の「市民ガイド」のユニフォーム。“自然と人の温かさ、歴史と文化の薫るまち”とあった。皆さん終始笑顔で生き生きとしたガイドぶりが印象的だった。

左は朝獲れキビナゴの天日干しの現場。河原海産の当主・勝さんのお話がグサッときた。曰く「海には再生能力があるが、それを超えた漁獲は駄目。昔から、食わぬ殺生するなかれと言われてきたが漁師個々人にはそれは出来ない。漁獲制限を徹底、孫の代に資源を残さなければいけない」と。2 泊 3 日、学び多き巡礼の旅となった。石原くんに感謝、あらためてエールを送りたい。

**●諏訪神社例大祭に諸先輩の影を慕う**　9月２日

大恩人たるEさん、Sさんの影はおろか、YさんやHSさんのお姿も見ることは叶わなかった。 移住組を含む若者たちが次の時代を担いつつあるのだろうか。舞台に登場する顔ぶれを眺めながら、つらつら想うのであった。

面白さ急には見えぬすすきかな　　鬼貫
上ノ原はもう秋。ススキの穂が頭を垂れ始めるころ。
早く、ススキの面白さが分かるようになりたいもの。

平成30年長月（青）

**～編集後記～**
『茅風通信』第 55 号をお届けします。
今年の夏、上ノ原も非常に暑い日々が続きましたが、7 月の防火帯刈り払いも無事実施しました。8 月の玉原高原散策は事情により中止になってしまいましたが、来月の茅刈りには大勢参加いただけるよう、しっかり準備を進めたいと思います。
これまで継続いただいた中村智子さんの「”ほっと”ショットコーナー」は前号で中休みとし、次号からは会員の近況報告などを掲載する予定です。中村智子さん、ありがとうございました。次号に向けて、会員の皆さまからのご寄稿をお願い致します。（稲）